最終日

SBS2005カップ 国際ユースサッカー

日本、惜しくも2位

アルゼンチンが逆転勝ちで頂点に―。SBS杯国際ユースサッカー（日本サッカー協会、静岡新聞社・静岡放送主催）最終日は21日、袋井市のエコパスタジアムで「U―18日本代表対U―18アルゼンチン代表」「静岡ユース対U―18セネガル代表」の2試合を行った。「日本―アルゼンチン」の直接対決となった覇権争いは1―1で迎えた後半24分、アルゼンチンのサーラテが逆転ゴールを決め2―1で日本を下した。大会1勝をかけた「静岡―セネガル」は、セネガルが2―0で静岡に完封勝ちした。

きのうの結果

U―18アルゼンチン代表	2―1	U―18日本代表
U―18セネガル代表	2―0	静岡ユース

U―18アルゼンチン代表―U―18日本代表　前半29分、ドリブル突破を図るU―18日本代表のハーフナー・マイク（中央）＝エコパスタジアム

U―18アルゼンチン代表（9）2（1―1、1―0）1（6）U―18日本代表

▽得点者【ア】ビアンチ、サーラテ【日】柏木

【評】日本代表は先制しながら、アルゼンチン代表に逆転を許し、惜しくも優勝を逃した。

日本は立ち上がりから積極的な攻めを任掛けると、前半4分、柏木の技ありシュートで先手を取った。だが、いい流れを続けることはできず、18分、アルゼンチンに左CKのこぼれを押し込まれて追いつかれた。

同点で迎えた後半。日本はいい形で攻め込むと、6分に柳沢が倒されてPKを得た。絶好の勝ち越し機だったが、柳沢が外し均衡を破れなかった。ここからはアルゼンチンのペース。日本は粘り強く相手の攻めをしのいでいたが、後半24分、中盤でボールを奪われて決勝点を決められた。日本は前線の人数を増やして反撃を試みたが、届かなかった。

【アルゼンチン】4・4・2

GK	サルバ	
	カラマンテ	
	ビアンチ	
	カガハイスアス	
	モジャンタウリレ	
	サバコチグアリエ	
	モウチェ	
	カリー	
9	SH	10
12	GK	4
1	CK	2
23	FK	18

【日本】4・4・2

GK	秋元	（横浜Mユース）
	内田	（清水東高）
	福元	（大分U―18）
	槙野	（広島ユース）
	堤	（浦和ユース）
	柳沢	（柏ユース）
	柏木	（広島ユース）
	青山	（名古屋）
	梅崎	（大分）
	ハーフナー	（横浜Mユース）
	河原	（新潟）

▽交代【ア】サーラテ（モウチェ）カレロ（サンチェス）デュル（カリーソ）セラジャ（モラレス）メルカド（バダグリア）【日】森野・市船橋高（河原）長谷川悠・流通経大付柏高（ハーフナー）長谷川ア・横浜Mユース（槙野）森重・広島皆実高（内田）

アルゼンチンの壁厚く

すき突かれ 日本2失点

焦点

優勝を狙っていたU―18日本代表は、U―18アルゼンチン代表という強固な壁を打ち破れなかった。先制点を奪い、勝ち越しのチャンスもあった。しかし、勝負強さでは相手が上。福元主将は「優勝したかったが、相手は強かった。世界レベルでは1つのミスが失点につながる。勉強になった」とがっくりと肩を落とした。

日本の立ち上がりは決して悪くなかった。早い時間帯に先制点を奪い、セットプレーから同点とされたが、アルゼンチンの迫力ある攻めを、粘り強くはね返した。だが、相手の激しいプレッシャーに徐々に押し込まれて、「プレスが速く、はたいたボールをうまく受けられず、つなぐサッカーができなかった」と柏木。DFラインと前線が間延びしてしまい、いい形で攻め込めなかった。

「2点とも防げた失点。完全に崩されての失点ではないだけに残念」と内田は悔やんだ。だが、相手はわずかなミスも見逃さず、ゴールに結びつけるしたたかさがあった。吉田監督は「スキのないサッカーをしないとアジアでも1次予選から2次予選へ進んでいけない」としみじみ語り、「試合の中で厳しさを出していけるようしたい」と個人個人だけでなくチームとしての成長を誓った。

（静岡新聞２００５年８月２２日朝刊）